

建設環境委員会視察報告概要

- 1 視察日時 令和4年5月11日(水)
午後1時30分から午後2時30分まで
- 2 視察先及び視察事項
 - ・視察先 静岡県浜松市
 - ・視察事項 「ごみ減量の取り組み及び家庭ごみ有料化の検討状況について」
- 3 参加委員
副委員長 杉田 忠彦
小林 澄子 大石 健一 青木 利幸 石本 亮三 西沢 一郎 秋田 孝
松本委員長は、体調不良のため欠席

4 視察の目的

所沢市では、市民・事業者・市の三者協働による減量化・資源化努力を背景に、近年順調に減量を続けてきましたが、直近の実績では、ごみ減量の鈍化から増加に転じる傾向が見られています。

浜松市では、平成30年度から令和2年度までに、「1人1日あたりのごみ排出量を350gまでに削減」を目標に、「ごみ減量天下取り大作戦」を実施し、現在ではごみ減量の施策として家庭ごみの有料化を検討していることから、ごみ減量の取り組み及び家庭ごみ有料化の検討状況について委員会として今後の審査等の参考とするため、視察を行った。

5 視察の概要

浜松市議会第1委員会室において、大橋浜松市議会事務局長の挨拶及び市概要説明、杉田副委員長の挨拶の後、浜松市環境部ごみ減量推進課による概要説明が行われた。質疑応答が行われ、杉田副委員長の挨拶をもって終了した。

6 概要説明

【「ごみ減量天下取り大作戦」の概要】

平成30年度の一人1日当たりの家庭ごみ排出量は498gだったが、「天下取り」と題し、家庭ごみ排出量が最も少ない政令指定都市を目指すため令和2年度の一人1日当たりの家庭ごみ排出量を350gにすることを目標にした取り組みである。

取組内容は「生ごみダイエット作戦」「雑がみ救出作戦」「モットイナイ作戦」の3つの作戦を柱に展開した。平成30年度ごみ質分析結果より、生ごみが全体の35%を、紙類が全体の30%を占めていたことから上記の作戦を中心とした取り組みとした。

【「ごみ減量天下取り大作戦」の経緯・背景】

浜松市は合併以降、ごみの出し方が町ごとで異なっていたものを一斉に統一し、指定

ごみ袋制度を導入した。その際にごみ排出量は一時的に減ったが、その後のごみ排出量に大きな変化はなかったため「ごみ減量天下取り大作戦」を展開し、ごみ減量に努めていくことを周知した。

ごみ減量推進の目的は「環境への負担軽減」「限りある最終処分場の延命」「ごみ処理経費の軽減」である。

【「ごみ減量天下取り大作戦」の結果・課題】

令和2年度に目標である一人1日当たりの家庭ごみ排出量を350gまで減らすことはできなかった。大作戦展開期間中（平成30年度～令和2年度）は、台風の影響で燃えるゴミが大幅に増え、コロナ禍により家庭ごみ排出量が増加する状況になってしまい、結果として微増の504gとなった。家庭ごみ排出量は微増となったが、外食などが減ったため事業ごみは約12%減少した。

取組内容としては、新型コロナウイルスの影響はあったが、おおむね計画どおり実施できた。減量が進まなかった原因は、新型コロナウイルスの影響のほか、ごみ減量の取り組みが自分ごととして市民に十分浸透しなかったことが要因の一つとして考えられる。啓発活動も積極的に行ったが、マスメディアを活用した不特定多数への広報は取組むことができず、ごみ減量への関心の薄い人には届かなかったという反省がある。反省を生かし、令和3年度の取り組みでは、YouTube やInstagramを活用した。

【家庭ごみ有料化検討の経緯】

「浜松市一般廃棄物基本計画」の中で一人1日当たりのごみ排出量を削減していくとしているが、ごみ排出量は横ばい状態のため、ごみ減量のための施策が必要と思いごみ有料化を検討している。

平成30年度の包括外部監査において、他都市で導入されている家庭ごみの有料化を検討すべきとの意見があった。

ごみ処理施設の新設にあたり、国から交付金の条件に家庭ごみの有料化を検討するということが加わった。

【家庭ごみ有料化の検討状況】

令和2年7月に浜松市環境審議会に行われた諮問を受け、環境審議会にごみ減量推進部会が設置され、審議が進められた。8回の審議の結果、家庭ごみの有料化に関することについて下記内容の答申があった。

家庭ごみ有料化はごみの減量施策として有効な施策の一つである。しかし市民の日常生活に大きな影響を与える施策であるので、下記の6点に配慮する。

実施に向けては、ごみ減量の重要性や、ごみ減量推進のために必要な取り組みであることを、市民に十分説明するとともに、新たな制度に対する混乱を招かないよう周知を図ること。

家庭ごみ有料化の対象品目は、ごみの減量及び資源化の促進の観点から決定されること。

家庭ごみ有料化を実施する場合は、市民に分かりやすく、手間のかからない方法で実施されること。

手数料の額は、期待される減量効果、市民への負担、家庭ごみ有料化実施都市の実績等を総合的に考慮して決定されること。

個々の努力での減量が難しい品目については、市民にとって過度な負担とならないよう

に一定の配慮をすること。

手数料収入は、ごみ減量へのモチベーションが働くよう、できるだけ市民に見える形で、ごみの減量及び資源化に資する事業を始めとする環境行政分野に活用されること。

配慮すべき点への検討内容は下記のとおり。

- ・対象品目：「燃えるごみ」及び「燃えないごみ」については有料化、資源物については有料化対象外とすることが望ましいと考える。
- ・実施方法：手数料徴収の料金体系は「単純従量制」とし、手数料の徴収方法は「指定ごみ袋上乘せ方式」とすることが望ましいと考える。
- ・ごみ袋の種類：「もえるごみ」と「もえないごみ」は共通のごみ袋とすることが望ましいと考える。
- ・手数料金額の設定：市が目指しているごみの減量・資源化目標を達成できるだけの効果が期待できる金額であること。市民の負担が過度にならないような金額であること。他都市の料金水準等を考慮した金額であること。
- ・手数料減免措置：紙おむつや、地域の清掃ボランティア活動から出たごみは、減免の対象とすることが望ましい。
- ・手数料収入の用途：家庭ごみ有料化の実施に係る経費のほか、できるだけ市民に見える形で活用されることが望ましい。

ごみの現状と家庭ごみ有料化の検討状況について説明動画を製作し、自治連合会や区協議会へ説明会を実施した。一般市民へも大規模会場にて動画を上映し、意見交換を行った。HPにも説明動画を公開し、動画視聴後にアンケートでご意見をいただいた。

【家庭ごみ有料化の課題】

新型コロナウイルス感染症の影響で、限りあるスペースで大人数を集める手法での周知や意見募集が難しい。娯楽性の高いものへの関心は高いが、ごみについてはなかなか関心を持ってもらえないので、市民からどのようにして関心を持ってもらえるかが課題と考えている。

7 質疑応答

質疑：昨年の3月までごみ減量天下取り大作戦を展開していたが、今年からごみ有料化へ取り組んでいくという方向性が決まったという理解でよいのか。

応答：ごみ有料化はごみ減量の有効な施策という答申をもらいましたが、市として公式に有料化の可否について意思表示はしていません。有料化の制度案としてご意見をいただいているので、市の実施案を提示し、市民から直接ご意見をいただく機会を設けていこうという点も含め議論していきたいと考えています。

質疑：自治連合会や区協議会への説明会というのは諮問に対する意見交換の場ということか。

応答：自治連合会と区協議会には過去にも説明会を実施しています。有料化の制度はどのようなものなのか、効果はどのようなのかという情報を提供しながら意見をいただくというのと、ごみ有料化制度の答申が出され、市としての制度案を作らなければならないので、その前に自治連合会や区協議会としてはどのようなのかというお話を伺いました。そうした経緯があり、今回は市としての制度案を説明

しました。

質疑：制度案を示されると、市民としてはいつから実施されるのかと思うのでは。

応答：そうした議論も出ています。

質疑：市としてはごみ有料化をいつから実施するという話ではなく、現状の考えを示しているという段階か。

応答：おっしゃるとおりです。市がごみ有料化を実施するといっただけで実施されるのではなく、議会へ諮り、議決される必要があります。また議決後から有料化へ移行するまで、1年間は周知期間としたいと考えています。

質疑：環境部の組織図を見ると、廃棄物処理課に新清掃工場建設担当課長が置かれているが、清掃工場の建設費用に有料化の費用は充てられるのか。

応答：そういった考えはありません。

質疑：来年の市長選挙の公約としてごみ有料化を掲げるといった動きはあるのか。

応答：そういった議論はありません。

質疑：動画はYouTubeにアップされているものか。

応答：おっしゃるとおりです。「YouTube 浜松市 ごみ減量」「YouTube 浜松市 ごみ有料化」と検索すると検索結果に出てきます。

質疑：設備等の費用に充てていく考えはないということだが、諮問事項に「新たな一般廃棄物処理施設の整備計画を進めるにあたり、家庭ごみの有料化の検討を、施設整備交付金の交付要件として求められております。」と書かれているが、ごみ処理施設関連で何か問題があるのか。

応答：今まで国は家庭ごみ有料化を交付金の要件にしていなかった。しかし、これから施設を新しくしていく所に関しては、ごみ有料化にコミットせずに交付金を請求することはしないことと国から明確にされました。

質疑：「ごみ減量天下取り大作戦」で一人1日当たりの家庭ごみ排出量350gを目指すとしていたが、当時の498gでもかなり少ないと思うが。

応答：ごみの指標については、国が示したり、全国平均を表しているものではありません。事業ごみを数値に出さず、家庭ごみだけに焦点を当てたのには理由があります。事業ごみは右肩下がりで毎年少なくなっています。しかし、家庭ごみは施策の打ち出しはしていますが、横ばいを続けています。新型コロナウイルスや台風の影響があったなか横ばいを続けていたというのは良くも取れますが、もしその影響がなかった場合、ごみは減量されたかという検証は難しい点があります。

質疑：政令指定都市で天下を取りたいということだったが、一番ごみが少なかったのはどこか。

応答：大阪市です。

質疑：平成17年の合併で浜松市になったが、その頃から指定ごみ袋だったのか。

応答：平成25年からです。

質疑：手元の指定袋には実践している世帯に配付しているとあるが、各30万世帯に配付したのか。

応答：天下取り宣言ごみ袋は「ごみ減量天下取り大作戦」の説明を自治会へ行った際

に、20Lの小さい袋でも収まるように積極的にごみ減量に取り組んでいただけるよう無料でお配りしたものです。全世帯にポスティングしたものではありません。

質疑：この説明を受けた方のごみが実際に減っているかどうかの追跡調査はしたのか。

応答：追跡調査はしていません。ただ、本来は透明なごみ袋を使うのに、この説明会で配った袋は赤なので、ごみを出すときに目立ち、この袋の存在を知らない人の注意を引きます。そうしますと説明会を受けると無料で袋がもらえるということが伝わり、説明会の宣伝になりました。

質疑：この赤い袋をもっと宣伝すればコロナ禍でもごみ排出量は減ったと思うが。

応答：作戦展開中の3年間のうち2年間は、年間100数件ほど説明をしました。それでもモニターアンケートでは知らないという人が圧倒的に多かったです。

質疑：市の方針としてごみ有料化を実施するかわからないが、ごみ有料化の制度説明を市民へしているという理解でよいのか。

応答：おっしゃるとおりです。

質疑：減量の施策について、ごみ有料化をせずにごみを堆肥にするなど処理方法を変えていくという考えもあると思うが。

応答：堆肥化やみどりのリサイクルなど行っています。

8 副委員長所感

浜松市では、所沢市と同じように「ごみの減量」を進めるため「ごみ減量天下取り大作戦」と名付けて取り組んできたが、ここ数年は減量に行き詰まってきたとの事である。

こうした状況の中、「ごみ処理施設」の新設も検討しており、国から交付金の条件に「ごみの有料化」を検討することが加わったため、検討をしていることがわかった。

「ごみの有料化」の方向性を進めているが、市民への十分な説明、有料化の対象品目の決定、手数料の決定などについて、しっかりと時間をかけて検討していくとの事がわかった。

所沢市の1年～2年位先に進んでいる状況であると感じた。また、委員会として大変参考になるものとなりました。